

平成 30 年度決算

1、はじめに

平成 30 年度は、既存建物並びに医療機器等の経常的な修繕と更新と、西新橋キャンパス再整備に必要な資金を賄える決算を目指して運営されましたが、良好な医療収入の伸びと、各機関の経営効率化努力により、基本金組入前当年度収支差額（利益）は予算を上回る結果となりました。

2、資金収支計算書

固定資産投資は 117 億円でした。内容は、建設仮勘定（新外来棟建設資金支払いが主）80 億円、医療器械 16 億円、教具（システム投資）9 億円、建物 9 億円でした。固定資産投資金額は大きかったものの、次年度繰越金は 565 億円と前年度末比で 79 億円増加しました。これは支払資金として有価証券を 83 億円売却した為で、現金・預金・有価証券の合計残高は 816 億円となり前年度末比 12 億円減少しました。

3、事業活動収支計算書

収入の部は、医療収入の増加等により予算を 14 億円上回るの 1,076 億円となりました。支出の部は、1,030 億円で予算を 12 億円上回りましたが、要因は医療経費が予算を 12 億円上回った為です。この結果、基本金組入前当年度収支差額（利益）は 46 億円となり、予算を達成することができました。

4、貸借対照表

純資産の部の増加 46 億円は当年度の利益です。この利益の内 23 億円は借入金と長期未払金（リース、割賦の支払）の外部負債の返済に充当されましたが、未払金の増加等があり負債の部・純資産の部の合計では 39 億円の資金余剰が生まれました。

固定資産の部では、北棟の竣工や新外来棟の建設資金支払いにより建物や建設仮勘定が増加しましたが、有価証券の減少により全体では 42 億円の資金余剰が生まれました。

負債の部・純資産の部・固定資産の部で生じた資金余剰合計 81 億円の内、79 億円は現金・預金として次年度に繰り越されました。

純資産の部の合計は 1,518 億円で、自己資金比率は 70.3%となりました。

5、決算開示方法について

平成 16 年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットのホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで開示しております。

以上